

## 学会シーズン

6月24日25日に文化財保存修復学会が帝京大学八王子キャンパスで開催されました。会員の皆様でも参加された方は多いと思います。コロナ禍で中止となっていた懇親会も復活して、楽しく有意義な交流の機会となったのではないのでしょうか。

7月27日28日には、青山学院大学で日本文化財科学学会が開催されます。

## 研究会だよりへ情報をお寄せください

日頃の取り組みやイベントのお知らせなど何でもOKです。皆さまのご投稿をお待ちしております。(次号は9月発行予定)

担当:土屋明日香  asuka@hiroshige-tendo.jp  
tel.023-654-6555

## 文化財情報あれこれ

東北芸術工科大学  
文化財保存修復研究センターが  
X線CT撮影装置を導入

文化財保存修復研究センターが、芸術系大学として国内初となるX線CT撮影装置を導入しました。  
下記の山形テレビのサイトから動画をご覧ください。  
<https://www.yts.co.jp/news/news-182311/>

NHK番組  
「ザ・バックヤード」に  
東京文化財研究所が登場

6月26日放送の「ザ・バックヤード 知の迷宮の裏側探訪」で東京文化財研究所が特集されました。再放送や配信もありますので、見逃した方はお早めにチェックしてみてください。  
<再放送> NHK 教育 7月2日(火) 14:35~15:05  
<見逃し配信> NHK プラス 7月3日(水)22:00まで

福島県立博物館  
「縄文DX  
-会津・法正尻遺跡と交流の千年紀-

磐梯町・猪苗代町にまたがる法正尻遺跡の出土品が、国重要文化財に指定されて15周年を記念する企画展。D(大木式土器のイニシャル)に何かを掛け合わせた(x)ハイブリッドな土器のルーツや、文化が交差するネットワークから、縄文ふくしまの特徴をみていきます。  
会期 2024年7月6日(土)~9月1日(日)

神奈川県立近代美術館 鎌倉別館  
「てあて・まもり・のこす  
神奈川県立近代美術館の保存修復」

「てあて」「まもり」「のこす」の3つの言葉を手がかりに、作品の修復過程やそこで使う道具、作品を守りつづ展示するための工夫など、普段は見られない美術館の取り組みを紹介する企画展。  
会期 ~2024年7月28日(日)まで

日本災害・防災考古学会  
第3回研究会  
9月オンライン開催

自然・人為災害と考古学・歴史学などの研究の相互の情報交換によって、今後の防災に寄与することを目的とする日本災害・防災考古学会。2024年9月28日、29日に第3回研究会をオンライン開催します。1日目「特集 令和6年能登半島地震と災害対応の実践」、2日目は災害・防災考古学に関する一般発表。



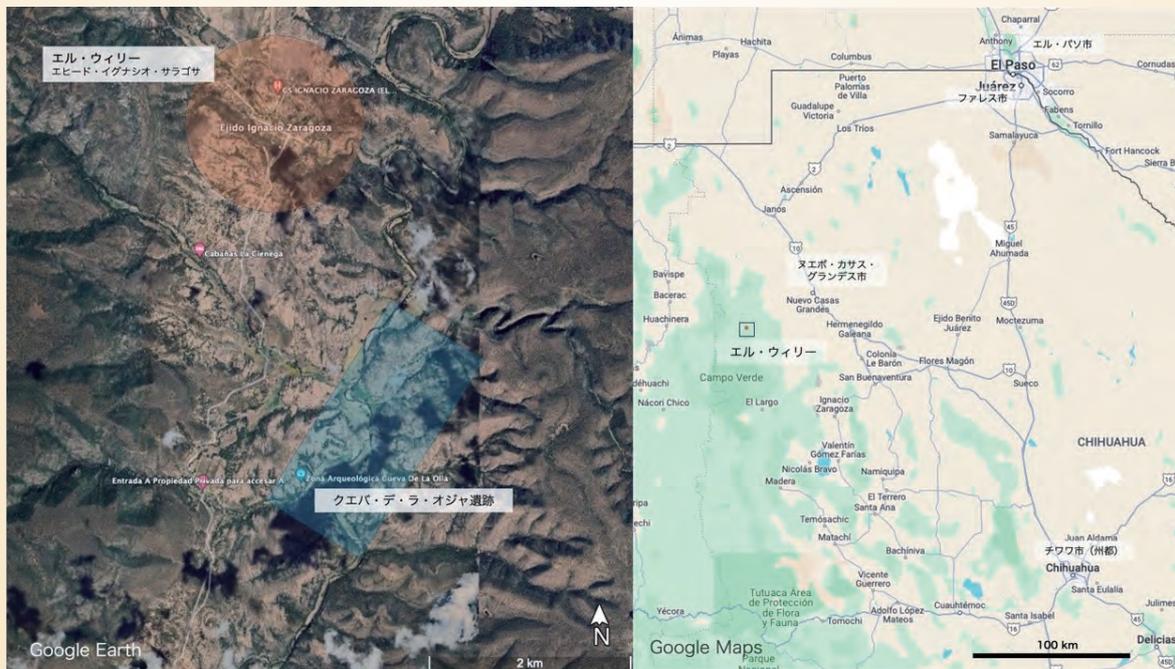
シウダー・ファレス自治大学 建築・デザイン・美術研究所  
准教授 喜多 裕子

メキシコから、土の建築の材料・構法や保存をテーマに便りを寄稿しております。今まで、カサス・グランデス地域の土の考古遺跡についてご報告して参りましたが、今回は、20 世紀の土の建築に関する研究についてご紹介いたします。

### 西シエラ・マドレ山脈北部の山間集落

前回までご紹介した、クエバ・デ・ラ・オジャ遺跡から 5km ほどの距離に、エヒード・イグナシオ・サラゴサという集落があります。19 世紀末に、米国から追放され、メキシコ政府に受け入れられたモルモン教徒たちが、各地にコロニア（入植地）を設立しました。特に初期の入植はチワワ州に多く見られ、州北西部の平野部、およびチワワ州とソノーラ州にまたがる西シエラ・マドレ山脈北部に 8 つのコロニアを形成しました。その後、メキシコ革命が 1910 年に始まり、チワワ州でも、フランシスコ・ビージャを筆頭とする革命家・革命軍が各地から集まり、活動を広げました。西シエラ・マドレ山脈北部のほぼすべてのモルモン教のコロニアは革命軍によって占拠され、モルモン教徒全体も 1912 年にメキシコ政府から追放され、多くが米国に戻りました。エヒード・イグナシオ・サラゴサは、革命後、各地から革命のために集まったメスティソ<sup>1</sup>が定住し、形成されました。周囲のコロニアを設立したモルモン教徒の指導者が住んでいた農場があった場所だったため、現在、その指導者の名前にちなんだ「エル・ウィリー」の名で親しまれています。道路標識でも、「エヒード・イグナシオ・サラゴサ」の名称は使われず、「エル・ウィリー」が用いられています。小さな集落ですが、集会所、小・中学校、診療所、食料品店、教会などがあり、西シエラ・マドレ山脈北部のその他の小さな集落や農場の中心として機能しています。

図 1. エル・ウィリーの位置 (Google Earth および Google Maps)



<sup>1</sup> メスティソは、メキシコでマジョリティの、スペイン語を話す混血の人々を指します。

## 20 世紀の西シエラ・マドレ山脈の風土的建築

スペインの植民地支配が始まった 16 世紀初頭から 19 世紀末にモルモン教徒がコロニアを設立するまで、西シエラ・マドレ山脈北部には集落がなく、現在存在する集落のほとんどが革命後に形成された、メスティソ集落です。村を一巡りすると、日干しレンガの壁に、急傾斜のトタン屋根、レンガの煙突、玄関ポーチなど、ある一定の様式があることがわかります。

図 2. エル・ウィリーの集落 (2017 年筆者撮影)



今回は、この集落の風土的建築と景観に関する研究の目的や方法に関して紹介したいと思います。

### 最後に：チワワ州の人種と集落

メキシコには、数多くの先住民族とコミュニティ（土地）があります。チワワ州では、現在西シエラ・マドレ山脈南部に居住するララムリ族（タラウマラ族）が有名ですが、その他に、チワワ州北部のマンソ族などが知られています。トレイルランニングやマラソンで世界的に有名なノレーナ・ラミレスさんも、名前・名字ともにメスティソですが、ララムリ族です。ララムリ族は居住地が山間部で、都市部との格差がある上、コカイン栽培の麻薬組織の支配もあり、生活が不安定です。さらに、メキシコの他の地域の先住民族と同様、言語の壁もまだまだ大きく、教育・医療などの機会が非常に限られています。一方、マンソ族は、混血がかなり進んでおり、また都市部に居住しているため、独自の文化の継承が難しいようです。また、先住民族への対応が遅れているメキシコと比べ、米国では先住民族への手当てが大きいと、テリトリーの範囲である米国へ移住するマンソ族も多いようです。また、チワワ州では、19 世紀末に移住したモルモン教徒、および 20 世紀初頭に移住したアーミッシュ（メノナイト）が、それぞれ独自の文化や生活様式を確立して住み分けされており、建築や集落にもそうした要素が反映されています。

#### 参考文献

- Bridgemon, R. R. (2012). Mennonites and Mormons in Northern Chihuahua, Mexico. *Journal of the Southwest*, 54(1), 71-77. <https://doi.org/10.1353/jsw.2012.0004>
- Dormady, J., & Tamez, J. M. (2015). *Just South of Zion: The Mormons in Mexico and Its Borderlands*. University of New Mexico Press.
- Hardy, B. C. (1963). *The Mormon Colonies of Northern Mexico: A History, 1885-1912* [Dissertation, Wayne State University]. [https://digitalcommons.wayne.edu/oa\\_dissertations/820/](https://digitalcommons.wayne.edu/oa_dissertations/820/)
- Lloyd, J. D. (2001). *Cinco ensayos sobre cultura material de rancheros y medieros del noroeste de Chihuahua, 1886-1910*. Universidad Iberoamericana, Departamento de Historia.
- Wahlstrom, T. W. (2015). The Southern Exodus to Mexico. Migration across the Borderlands after the American Civil War. In *The Southern Exodus to Mexico*. University of Nebraska Press; Lincoln & London. <https://doi.org/10.2307/j.ctt1d9nhh2>
- Wright, J. B. (2001). Mormon Colonias of Chihuahua. *Geographical Review*, 91 (3), 586-596. <https://doi.org/https://doi.org/10.2307/3594742>